

てるのかもしれませんが、あとそれ以外は、こういう言い方は失礼です。過疎債ですよ。過疎債。そういう財源を持つてるところだからできるんですよ。

私は、さっきから申し上げてるように、やりたいことはいっぱいありますよ。今泉議員も感じておられると思いますが、まずゼロ歳児から3歳児未満までの保育料を無償化してほしい。本当に大変な思いをしてるお母さん、お父さんいっぱいいるわけですから。そこをどうするんですか。それだって同じじゃないですか。学校給食は学校給食で、さっき言いましたように、調理場を新しく建てたので、しばらく待つてほしいと。でもこれ以上負担上がらないように、吸収して、我々で何とかしたいということで今までやってきたんですよ。

今、いろんなところが、山形県内はまだ少ないんですけども、全国的に給食費無償化についてはいろんなところが出てきます。それやれるところは羨ましいんですが、我々はそこまでできなくとも、やっぱりできるだけ負担をかけないような努力をしつつ、国が言っているように、これから本当、少子化どうするんですかと。そのときに抜本的な政策打ち出してほしいわけです。そこを共産党さんで頑張っているんだとしたら、同じ思いなわけじゃないですか。それをきちんと言ってるのに、私はしないなんて全然言ってないですよ。やりたいんですけども、今ちょっとなかなかできないので、これ以上負担増やさないように頑張るので。ただ、本当できることなら、どこの自治体も無償化してあげたいはずですよ。だって我々の次の、次世代を担っていただく子供たちにできるだけおいしくて、栄養価が高くて、しかも保護者も負担なしで喜んで食べることができる、そういう給食というのは非常に重要だと思うんですが、それは私をよっぽど信頼してないと思うんですが、ちゃんとやってるじゃない

ですか。例えば今まで間違っていた子育て支援住宅の対策、中学生までのを、私、高校生までのつもりでいたんです。勘違いしてたんですよ。大変申し訳なかったんですが。それはすぐ認めて、おわびしながら、すぐやったじゃないですか。私は何も共産党、自民党とか立憲民主、関係ないですよ、地方自治では。ですから同じ思いで頑張りますので、ぜひこれからもいろいろご指導いただきたいと思いますが、ぜひある程度信頼もしていただければありがたいなと思います。

○鈴木富美子議長 15番、今泉春江議員。

○15番 今泉春江議員 市長の思いは十分受け止めました。給食調理場が清水町にあったときは、本当に食品衛生の面からもどうなるのかなと非常に危惧しておりました。私も食品衛生に関わるボランティアなどしておりますので、非常に危惧しておりました。今回しっかりした施設ができて、本当によかったと思います。子供たちの健康に大きく資するものだと思っております。アレルギー対応食というようなことも、市長、何度もおっしゃっていただいて、前向きに取り組んでいただいておりますし、今回、17円の追加補助というようなことも、私は前向きに評価しております。ですけども、ですけどもって失礼ですね。少しずつ前に進めていきたいと思えます。できるところからと私は強く申し上げたいと思えます。引き続きよろしく願いいたします。

質問を終わります。

平井直之議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位9番、議席番号1番、平井直之議員。

(1番平井直之議員登壇)

○1番 平井直之議員 皆様、お疲れさまでございます。本日最後の一般質問をさせていただきます。

私は、このたびの長井市議会選挙におきまして、無投票という形になりましたが、初当選させていただきました21爽風会の平井直之でございます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この場をお借りしまして、ご支援いただきました多くの市民の皆様へ御礼を申し上げます。長井市の発展のため、全力で取り組んでまいりますので、市民の皆様、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

また、市長をはじめ当局の皆様、先輩議員の皆様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

私は、今年の3月まで民間企業に34年間勤めさせていただきました。その間、労働組合活動を執行委員長として7年余り務めさせていただきました。様々な経験をさせていただきました。その中で感じたことは、地元へ就職される若者が少なくなっているということです。ここ数年、企業で求人の募集を出しても定員まで届かなかったり、応募がなかったりしていることをお聞きしております。このような状況が長く続くようになれば、企業のみならず、地域活動などの活性化にも大きく影響してくるものと考えます。高齢化が進み、これまで築き上げてきた経験や技術、伝統の伝承が途切れてしまうのではないかと危惧しているところであります。

現在の日本の大きな課題は少子化であります。すなわち人口減少社会となることであり、このことによって社会が大きく変わることになります。当然ながら私たちの地域も様々なことが変わっていくこととなりますが、次世代を担う若い人にどのような地域を残していくのか、あるいはどう地域を構築していくのか、考えていく必要があると思います。

長井市は、最近、公共投資の事業を集中的に進めてきましたが、市民からは、今後の財政が

悪くなっていくのではないかと心配の声もあります。市長からは、心配する必要がなく、今後の財政運営について、慎重に見極めていくとのお話もございますが、今後の日本は国際環境の変化や人口減少などによる財政負担を強いられることも予想されることから、今後の市の財政も厳しさを増すことも予想されます。したがって、適切な財政運営が求められると考えますので、議会としての役割を果たせるよう取り組んでいきたいと思ひます。

それでは、通告に従ひまして、初めての一般質問をさせていただきます。私からは、大きく3つの項目について質問させていただきます。

初めに、大項目1、雇用の確保についてです。

国勢調査のデータによりますと、平成22年度での長井市の人口は2万9,473人、平成27年度での人口は2万7,716人となっており、令和5年4月での人口は2万5,051人まで減少している状況です。この人口減少、人口流出については、喫緊の課題となっております。

その一つの要因として、最近では進学率も向上してきており、高校を卒業し、進学で長井市外へ転出する人が多くなり、地元へ就職する若者が減少している現状があります。地元へ就職する人もそうですが、進学などを含め、長井から離れた人が長井に戻って就職をし、そして安心して働ける取組が必要と考えます。

そこで、1点目ですが、今後の産業政策について質問いたします。令和5年度の施政方針の中にありました重点戦略3、豊かな暮らしを実現できる、長井で働く魅力UP戦略につきまして、長井市として様々な産業分野がありますが、どの産業に重点を置いて進めていくお考えなのか、また、特にコロナ禍以降の経済あるいは産業について、どのような変化があるとお考えなのか、市長にお伺ひいたします。

2点目ですが、新たな雇用の創出についてですが、現在も新規就農支援や6次産業化の推進、

ビジネスチャレンジコンテストなどの起業・創業支援の取組を行っており、一定の成果は出ているものの、人口減少に歯止めがかかっておりません。これまでの新規事業の支援と同時に既存産業への施策も必要と考えますが、今後、どのような計画をされているか、産業参事にお伺いいたします。

3点目は、今泉地区に整備する新産業団地についてです。新産業団地が整備されることは、新たな企業誘致や地元企業の事業拡大など、新たな雇用の創出ができることから、大変期待しているところではありますが、大きな課題は人の確保であります。現在も既にどの産業分野においても人手不足の状況にあり、実態として、70歳程度まで雇用されている現状があると思われれます。既存産業企業と新産業団地における人手の確保は今後の課題であり、その点について、どのように考えておられるか、産業参事にお伺いいたします。

次に、大項目2、都市機能の向上について質問いたします。

現在、桐町成田線街路整備事業も完成間近となっていますが、本来の事業目的である子供たちの通学路の安全確保など、交通環境改善では大きな成果であります。一方で、大変きれいに整備されたことによって、商店街の活性化を期待しており、さらに力を注ぐ必要があるのではないかと思います。

そこで、1点目ですが、本町街路事業後のまちづくりについてです。今年の5月8日から新型コロナウイルス感染症が第5類に変更になったことから、コロナ禍前のような生活環境が戻りつつあります。また、今年の8月からは、長井市遊びと学びの交流施設「くるんと」がオープンいたします。それに伴いまして、長井市内外から多くのお子さんご家族の方が来場されるのではないかと期待をしております。「くるんと」に来られた方が施設以外にも満足してい

ただけるような商業施設が必要と考えます。

市長にお伺いいたします。地元商店街などとの話し合いもされていると思いますが、今後の魅力あるまちづくりについて、どのようなお考えをされているのかお聞かせください。

2点目ですが、長井駅西側の開発整備についてです。本町におけるヨークベニマルの移転により、買物困難者の問題があったことは承知のとおりであります。今般、駅西にありますおーばんサンプラザ店の移転、閉店の話が出ていることは、周辺地域のみならず、大きな問題であると考えます。同時に、中心市街地活性化の施策は駅東側に偏っているものと思われれます。かつては駅西の開発について、当該地区からも様々な要望も出ていましたが、残念ながら東西の格差を感じざるを得ない状況であります。

市長にお伺いいたします。今後、駅西開発について、市としてどのような位置づけで考えていくのか、商業施設も含めてお聞かせいただきたいと思ひます。

次に、大項目3、災害時の安全・安心な避難所の確保について質問いたします。

昨年の8月にも豪雨災害が発生し、道路の冠水や土砂崩れ、建物の床上・床下浸水など、甚大な被害を受けました。その際、市庁舎をはじめ公共施設など、避難所として多くの方を受け入れ、対応していただきました。このような10年に一度と言われるような豪雨などの自然災害が毎年のように発生している状況になっており、早急な対策が望まれます。

1つ目ですが、防災対策についてです。昨年8月に豪雨災害が発生し、市内各所に避難所を開設し、多くの方が避難され、この庁舎においても近隣住民の避難所として多くの方が避難されました。これまでの豪雨に対する取組についての検証を行い、新たな取組の検討が必要と考えます。

豪雨災害に対する対策について、市長にお伺

いたします。昨年8月のような豪雨が発生するたびに災害も発生しており、早急な対策が必要と考えますが、今後、どのように考えているのかお聞きいたします。

2つ目ですが、災害時の避難の在り方についてです。避難所に加えて、避難の在り方についても、高齢化に伴い、難しい問題が出てくるのではないかと思います。豪雨などの気象情報は十分精度が増してきているものと思いますが、必ずしも対応が全て完璧にはできません。避難所への避難がタイミングよくできないことも想定され、特に高齢者の誘導や移送はスムーズにいかないこともあると思います。ましてや豪雨のさなかでの移動は難しいと言えます。

そこで、特に水害での対策として、垂直避難、すなわち住居の2階への避難なども手段の一つとして上げていくのも必要ではないかと思います。避難の在り方について、どのように考えておられるのか、総務参事にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 平井直之議員から、記念すべき第1回目の一般質問ということで、大変市政全般にわたって様々な視点から、議員として、または市民の目線からの貴重なご質問、ご提言をいただいたと思います。ありがとうございます。

大きく3点にわたり質問、提言をいただきましたので、順次お答えを申し上げたいと思いますが、少し概論でのお話が多かったように思いますので、少しずれておりましたら、後ほどできるだけ簡潔にお答え申し上げながら、再質問できるようにしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

最初に議員のほうから雇用の確保についてということで、人口がどんどんどんどん下がっているということなんですが、最後におっしゃった令和5年4月の人口2万5,051人、これは長

井市の住民登録上の人口でございます。ただ、実態は、それ以前におっしゃっていただいたのは国勢調査のデータだと思いますので、国勢調査と実態は違うんですね。実態というか、住民登録というのは、住民登録なくても長井市に住んでいる方というのは大体1,000人から1,500人ぐらいいらっしゃると思います。ですから実態は、この2万5,000どうのこうのってどんどんどんどん下がっていきませんが、これはあまり適切な表示じゃないということで、市の窓口といいますか、正面玄関から入っていただいて、長井市の人口何人、何人とあるのをやめました。あれは適切ではありません。一般市民から見分らない部分というのは実はたくさんあるのが我々行政なんですね。ですから議会はそういったところなどもご指摘いただきながら、ただし、私どもとしては、できるだけこれからの長井市について、何が正しいのかということをお我々自体の考え方でいろいろ答えさせていただきますので、それはご指摘いただければと思います。

なお、議員から、最近、公共施設整備等々で大変なお金を使っているが、財政大丈夫なのかということなんですが、それも大切な視点です。ただし、今、私どもがやってるのは、新たに造っているものというのは「くるんと」だけです。あとはもう何十年来の宿題を今やってると。ですからここは市民のほうから金をちゃんと管理しながら引き続きやれという視点でお願いしたんですね。だって役所なんて六十数年ぶりに建てたんですよ。

あと、長井病院、あれも県と2市2町でつくる病院企業団でやってるんですが、6階建ての建物のうち4階と1階しか使ってなかったんですよ。しかも耐震度がめちゃくちゃ低いんです。それはどうしようもないので、あちらの病院企業団では絶対動きませんからね、お金をうちで出さなきゃいけないんですよ。ですから取り壊すだけで10億円かかったんですよからね。

新しく建てたのは二十数億円。しかも国土交通省の補助事業によって建てたんですよ。そういうことを地道にやりながら、あと、先ほど申し上げましたけども、今泉議員でもお話しした学校給食共同調理場、あれも50年以上建ててないんですよ。すごい状況でしたよ、本当に。こんなところで作っていいのかというぐらいのもの。それだってじゃあ批判されるから造んないと言えば、それは誰も批判しませんよね。それでいいんですかということなんですよ。批判されても必要なときはできるときにやんなきゃいけないと。なおかつできるだけ長井市の負担を少なく、いろんなところから財源を確保して、負担の少ないやりくりをしながら、必要な公共施設は次の世代にしっかりとバトンタッチすると。しかも、ずっとその借金を背負わせるんじゃないかという議論はいつも議会から言われておりますが、大体10年から15年でお金を返しますから、次の世代、一部かかりますけれども、基本は今の我々の世代がそれを負担して次の世代にバトンタッチするという考え方でありますので、そこを踏まえた上で、ちょっとお話をさせていただきますと思います。

まず最初にいただいたのは、雇用の確保についてということで、産業政策、議員からは、施政方針の重点戦略3の豊かな暮らしを実現できる、長井で働く魅力UP戦略についてと、どの産業に重点を置くのかということのご質問でございます。

議員からありましたように、最近では長井市の有効求人倍率、少し下がりましたが、コロナ禍前から、特に正社員の有効求人倍率は一時2.0を超えてましたし、今、かなり落ち着いたんですが、それでも1.5ぐらいを下回らないと、あと、全体で1.4を超えておりますので、非常に有効求人倍率は県内のハローワークの中でも常にベストスリーに入ると、それぐらい仕事はあるということですが、裏を返せば若い人が、

働ける人が少ないということなんですね。したがって、平井議員は市内の代表する企業で働いてこられて、また、労働組合の委員長などもなさったということで、いろんな産業の実態なども熟知していると思いますけれども、そういった中で、なぜ若い人たちがいないのか、少ないのか、それをどういうふうに変えていくと若い人たちが残ってくれるのか、あるいは戻ってきてくれるのか、それが一番の課題です。これはもう一発でそれを解消できるなんていうことはあり得ないんですね。総合力ですので。そういった意味でいえば、産業政策の中で何を重点的に、どの産業を重点に置くのかというのは、私どもはそういった考え方ではしておりません。

今、若い人たちがなぜ地元に残らないかということ、まず第一におっしゃるのは、自分の就きたい仕事がないんですよ。自分の就きたい職種が少ないと思っているんですよ。しかも長井市は製造業と農業、ものづくり産業が基幹産業です。もうこれは誰でもが皆さん思っていると思います。ここをまず重点的にしなきゃいけないんですが、でも就きたい仕事の多くはサービス関係ですから、ですからそういった業種もつくらないといけないと。したがって、長井市として一つの業種に絞って、これに重点を置く、いわゆる昔はやった集中と選択というのは、長井市ではそういう政策は取っておりません。

なおかつ産業政策は我々行政、市でできるものは限られております。むしろ商工会議所、あるいは農業団体、農協と一緒にあって、支援していく、我々は。国ではありませんのでね。地方自治体ですから。産業政策は国です。経済産業省含めてね。それに対して私どもはそういった国の施策を、例えば製造業さんだったらこういう事業を受けて、あるいはこういう免税を受けて、いろんな優遇措置ありますよとか、あとものづくり補助金はこういうことで申請するともらえますよとか、そういったお手伝いは商工

会議所さんなんかと一緒にやっていますが、私も産業政策をどうのこうのというのはできません。一緒になってやっていくという考え方がありますので、そこがちょっと我々地方自治体、とりわけ長井市のような都市自治体でありながら財政力がそんなに強くない、そういう自治体は非常に厳しいところがあるんだと思ってます。

まず、どの分野に重点を置くかについて、改めて簡単に引き続き申し上げますが、どの分野も重要でありますので、絞るという考えではありませんが、分野ごとに取組の視点があり、進めていくこととなります。製造業を例に挙げますと、コロナ禍では海外への製造拠点シフトがあだとなって、部品の調達ができず、出荷の遅れが続出するなど、生産構造そのものの課題が浮き彫りになりました。そのため、政府でも言っていますが、サプライチェーンの国内回帰の動きが活発になっている状況でございます。そういった意味でいえば、後ほどお話しします新産業団地などについては、造れば即売という状況が今続いているということのようです。例を挙げれば山形市さん、天童市さん、それから上山市さん。ただし、そういうところに立地されているところは非常に立地場所がいいということで、非常にそういったことでの好調の動きがあるようでございます。

長井市では、このような経済情勢と新潟山形南部連絡道路の梨郷バイパスの竣工時期、今年度でございますが、国道113号線と接合部である長井市今泉のインター付近に長井市では初めてとなる産業団地整備を進めております。産業団地の誘致企業につきましては、製造業に限ったものではございませんが、できますれば、まずは長井の製造業と連携していろんなものがプラスに作用するような企業ということ、あとは、長井市の今既存企業の中で、ラインを拡大したい、ですから用地が必要だということにもかかわらず、なかなかそれが実現できない。産業団地と

いうのは、今、あかしあ産業団地がありますが、あれは以前、昭和40年代に造った農耕団地っていいましてね、用地のくくりだけ、ここのエリアだって決めて、そこから土地を地権者に交渉して譲ってもらって、自分で造成して立地する、そういう団地なんですね。ですから長井市で団地として販売するのは今回が初めてなんですね。

そういった状況でございますが、若い人が働きたくなるような企業も、あと、長井・西置賜に集積されている企業にとってもネットワークで受注できるような業種、さらには、誘致企業により産業クラスターが形成されるようになればと考えているところでございます。産業クラスター企業というのは、企業とか大学、あるいは企業同士の連携が図られて、イノベーションと新事業、新産業の創出が連鎖的に生じる、そういったものを目指していきたいと思っております。

また、コロナ禍では、特に働くスタイルが大きく変わらして、住宅、在宅での仕事が常識の時代になっています。長井市では、生活に必要なサービスや都市機能の利便性を飛躍的に高めるスマートシティを、今年3年目でございますが、5年間の事業に取り組んでおりまして、タスには2階にコワーキングスペース、サテライトオフィスの機能も持たせる。それから、ワーケーションルーム、これは3階でございますが、こういったことの整備をして、テレワークができるような、そういった長井市に機能を持たせるべく努力をしているところです。こうしたデジタルトランスフォーメーションは人手不足にも対応していくものと考えておりまして、生産ラインのオートメーション化や流通現場でのロボット化がさらに進むものと思われませんが、これでも根本的な人手不足解消には届かないと考えます。そのため、今後、キャリア教育の推進が非常に重要であると考えておりまして、議員おっしゃるように、人材確保、人材育成、これは非常に重要で、義務教育である中学校の段

階から地域産業や地元企業を知る機会を設け、将来の職業と進学する高校・大学への進路等、地元で活躍する機運をつくっていくことで、人材の確保につなげていきたいと思っております。

そして、外国人技能実習生なども、人材、今、不足しているので、まず、受入れということも現実的に今後も考えていかなければならないと思っております。そういった意味からも、政策の柱に今年からはダイバーシティ、多様性ですよ、それからインクルーシブ、共生社会といえますか、こういった視点からも外国人にも住みやすい、働きやすい長井市となるよう環境整備を進めていかなければならないものと考えております。

2点目でございますが、都市機能の向上についてということで、私のほうでは、本町街路事業後のまちづくりについてということでございます。

「くるんと」というのは、ご承知のとおり、市役所の隣のグンゼさんの敷地をお借りして、PPPという手法でこの8月11日にこの施設完成のプレオープンをいたしまして、9月1日にグランドオープンの予定をしております。今後、「くるんと」を核として、周りの公共施設や民間施設とをつないだ空間を活用したにぎわいの創出が必要と考えております。その中で、まずは「くるんと」を活用した子育ての推進を図るとともに、子供たちを含め、市民の皆さんが長井ってやっぱりいいなと、好きになってもらうような取組が重要であると思っております。そのため、商店街やまちづくり団体と協力・連携したイベントの実施や新たな取組を起こしまして、まちなかの魅力創出を単年度ではなくて3年ぐらい連続して行っていく、そういった準備をしているところです。

また、これらの取組は持続的に行う必要がありますので、その体制の構築や、空き地、空き店舗等の活用にもつながる取組をしなければな

らないと思っております。そのため、きっかけとなる事業を行いまして、地域で自走できる持続可能な体制づくりを進めていく必要があると思えますし、そうした取組により、市街地の交流人口の増加につなげていきたいと思っております。

そのほかにも子育て世帯を含め、市民同士が自分の住む長井のまちとの関わりを持てるよう、そのきっかけとなるイベントや触れ合いの場を設けることで、市民や市内在住の外国人、障がい者等の多様な人々がお互いに参加し、理解し合えるよう、ダイバーシティやインクルーシブの視点で事業を起こしていきたいと思えます。

この「くるんと」オープンをきっかけに、我々は、次の世代が求めるものは、今の長井よりもっともっと寛容性のある、しかも商業機能も充実して、都市機能がそれなりに利便性の高い、そういったまちを、遊びも文化も含めて、スポーツも含めて、そういったものを考えておりまして、そのときのキーワードは寛容性のあるまちづくりだと思っております。やはり都会に行った若者がこちらへ戻ってくると息苦しい。それは何かというと、何だかんだ人に言われるというのが今の若い人たちは非常に嫌がるというところがありまして、ですからお互い理解し合えるような、そういった寛容性のあるまちを目指していきたいなと思っております。

一方で、今年度よりデジタル田園都市国家構想交付金を活用したにぎわい創出の事業に取り組んでまいりますので、先ほど申しあげました3年間というのはこの事業でございますけれども、商店街やまちづくり団体と意見交換しながら、魅力あるまちづくりを進めていかなければならないと思っております。

なお、本町街路事業というのは、本町の商店街があるわけですが、商店街の在り方について、あるいは商業機能について、我々行政は、例えば誘致するなんていうことは今の長井では

とてもできません。なおかつその判断というのは商業者自身の判断ですから、結果として、街路事業の採択は、我々が県に働きかけて、あと市でも負担しながらああいうふうにやったんですが、今後は、自分たちが、商業者自身が努力をしてほしいと、必要だったら我々にその支援をこれしろ、あれしろと言ってほしいと思っております。

したがって、あの街路事業で非常に残念だったのは、あそこの拠点店舗がいなくなりましたよね。それはそれでご本人の判断だと思うんですよ。ですから長井市の商業者というのはそういう視点に立っておられるんですね。そのために、私どもは「くるんと」のような多機能型図書館と子供の屋内遊戯施設、こういったものを作ることによってにぎわいをつくろうと、そのにぎわいでいらした方々に、あとは商売するのは商業者ですから、我々は商業者になれませんので、それを応援するというのが行政の立場であります。

続きまして、駅西開発についてですが、議員おっしゃるとおり、駅西は何か見捨てられたように思っておられるんですが、実は現在、中心市街地活性化基本計画という、これは内閣総理大臣の認定を受けた計画、これすごくメリットあるんですね。今、山形県内で認証をもらっているのは山形市、鶴岡市、酒田市と上山市と長井市だけなんですよ。置賜地域では米沢市も取ろうともしない。南陽市も、それを知ろうと思っただけでも実はすごくメリットがあるんですね。ただ、エリアの範囲がありましてね、西は駄目だったんですよ。私、西、入れたかったんです、おっしゃるとおり。百間通りはせめて入れたかった。でも面積が定められていて、ちょっとそれでは計画の承認がもらえないということで、残念ながらフラワー長井線から東側になってしまったというのが実態でございます。それも例えば横町とか、あっちは入ってません。

緑町とかは入ってません。館町も入っておりません。ですから本当に限られた、中心市街地として、例えば金融機関とか、個人医院とか、それから核となる店舗も、店舗はそんなになくてもいいんですが、交通手段とか、そういったものが、中心市街地に必要な機能であるのが長井駅から郵便局の周辺、限られた数百ヘクタールということだったので、入れることができなかったということでございます。

議員からは、東西の格差を感じる状況の中で、市として駅西、今後どのように考えているのかということなんですけど、まず、端的に言って、サンプルさんといいますかね、議員も上げていらっしゃるからですが、これは商業者としての判断でしょうから、我々はどうしようもないですね。ただ、「くるんと」ができることによって、特に市役所も駅のところにできたことによって、西のほうは実は少し工夫すれば一体になるチャンスはいっぱいあるんですね。したがって、今後は、ちょっと私が市長をしている間には難しいかもしれませんが、ぜひ西のほうとどういうふうにして一体化できるか、そういった都市の再開発とか、街路事業とか、そういったものをもう少し研究しなきゃいけないと思います。

なお、駅西開発って、今から25年ぐらい前で、30年ぐらい前にあったのは、区画整理をして、そしてそこに道路を切ったり、ある程度商業用地として決めたりとか、もう1回町を再開発するという計画だったんですが、当時の担当がまだいらっちゃって、職員として残っているもんですから聞いたら、減歩率が5割だった。ですから、例えば100坪のうち、じゃああなたも協力してくださいと、ただし、50坪は提供してくださいねということになるんだそうです。だから反対で、結局賛成というか、みんなでやろうということにならなかった。それだけ住宅がびゅーっとあって、道路がちゃんと通っ

てなかったんですよ。道路をきちんと取るには、そういう住宅の方から譲ってもらって整備しないと区画整理できないわけですね。ですから中道なんか本当大変なわけですよ。ですからそういったところなども問題があってできなかったと聞いております。

今後、どういう手法があるかはいろいろ研究しなきゃいけないんですが、結局、中道とか清水町、あるいは幸町に住んでる皆さんに不便をおかけしないような、買物などに、そういったことで、もしかしたら駅西のほうに、例えば駅の周辺にそういう商業用地なんか確保できたら、企業は、スーパーなんかは喜んで立地されると思うんですね。多分、あと、サンプラさんは随分老朽化しているので、それをもう1回あそこに造り直すというのは、今度はお一ばんさんの資本が強くなりましたので、なかなか難しいという判断なのかもしれません。ただ、具体的に交渉しているわけではありませんので、その辺などは地元の皆様がどう考えておられるか。私どもは、引っ張ってくる力はないんですが、民間の企業さんと一緒になれば可能なこともあります。今、ウエルシアってありますよね。菜なポートの、本町にある、前、ヨークベニマルがあったところ、あそこも実は、今だから申し上げると、ヤマザワさんが来るということでほぼ決まっていたんですね。ただ、ちょっといろいろ問題があって、ヤマザワの一部に反対があって、最後は断念したということなんです。だからうちのほうで菜なポートをあそこに出したんですね。あれはもともとは地元の金融機関の用地だったんですけどね。そんなこともございました。

あと、最後に、すみません、長くなりまして、災害時の安全・安心な避難所の確保についてということで、防災対策で、豪雨災害に対する対策についてということでございますが、これは、まず一つは、この間、置賜3市5町でNTT東

日本さんと防災に関する連携協定みたいなのを結んだんですね、それぞれ。多分ほかの自治体がどういう防災対策、大雨、洪水のときにどうするか、地震のときどうするか、いろんな計画、それぞれ立てているんですが、実は我々も隣の町がどういう計画を立ててるか分かりません。ただ、その中で一つ言えることは、長井市は、防災対策は、私個人としてはかなり頑張ってきた思いなんですね。例えば東日本大震災のときに活躍したのは防災FMだったんです。その前に、実はFM放送をやりたくてやりたくていたんです。これはコミュニケーションとしてFM放送したかったんですね。ただ、行革で、7,000万円から8,000万円かかると、そんな金、用意できますか、市長と言われて、はい、諦めますって諦めたんですよ。ところが震災で実は小さい放送局が防災ラジオとして避難というか、被災した方たちを勇気づけていたということをお聞きして、じゃあこれ、今だったら支援してもらえるかもしれないということで、いわゆる緊防債という、緊急防災対策債、7割支援してもらえる補助でできるということが分かって、防災ラジオ、おらんだラジオをつくることのできたんです。これは職員も頑張りました。あとJanも取り組んでくれましたので。

このFMというのは実は長井市だけなんですよ。防災ラジオ全部配置してやって、聞きたくなくてもこちらから情報提供する。避難指示だと、避難してくださいって働きかけることができる。これを持っているのは実は長井市だけなんですね。飯豊町も防災協定で一緒に入りましたが、その後、ラジオをどういうふうにしてるか分かりませんが。あとは、長井市としてちょっと弱いのは、避難場所がなかなか適切なところに配置できないと。例えば中央地区でしたら長井高校とか長井工業高校になるわけですよ。あと長井南中学校とか長井北中学校になるわけですね。そうすると、そこまで行くのに大変り

スクがあるという人がいっぱいいるわけです。遠いし。あと、市役所がここにできたことによって、ままの上とか、ちょっと今まであったところの付近の東町の辺りの人たちは今回、去年の防災といいますか、大雨のときにこちらに避難することができたんですが、最終的な避難場所は置賜生涯学習プラザなんですね。置賜生涯学習プラザのほうは、ああいう陸上競技場も含めて緑地公園ということで整備したんですが、あれは防災公園という位置づけなんですね。なぜ人工芝にしないのかというと、いざというとき仮設住宅にできるようにしてるんですね。消防と警察と市で、市役所が駄目になったとき、あそこが拠点として活動できるようにしています。弱いのは避難場所ですね。そののところがもうちょっと工夫できないかと。ただし、小・中学校のほうにエアコンを入れることができましたし、あと、去年の夏もそうだったんですが、段ボールで作ったベッドとか、間仕切りのパーティションとか作って、いざというときのそういう避難所のことなどについても大分整備ができたかなと。

あと、自主防災組織も、あと1地区だけまだできてないんですが、もう99%を超えましたので、いざというときは自主防災組織と、地区のことは地区の人たちでやるしかありません。行政が全部面倒見るわけにはいざというときいけません。消防もそういうわけにはいけません。ですから、地区と、基本的にその地区の消防団、これをメインとして、あと地区長会、あとは防災、自主防災組織で頑張っていくという考え方でございます。

なお、今年のアヤメR e p o 6月号では防災特集として、令和4年8月豪雨の振り返りとか、防災情報の取得方法、非常用持ち出し品の準備、災害に応じた避難場所などの周知を図ってまいりまして、舟場、屋城町、東町の各地区では今年8月上旬の完成を目指した、国土交通省の山形

河川国道事務所のご協力により、まるごとまちごとハザードマップなどを自主的に作ろうとしています。国においては、気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえて、河川流域のあらゆる関係者が協力して流域全体で行う治水対策、流域治水への転換を図るべく、今、進めているところです。流域治水の考え方については、今年6月1日に最上川流域治水協議会事務局が作成したチラシを全戸配布させていただいていますが、長井市においてもこの流域治水の考え方に沿って関係各所と協力を進めております。

なお、最後にですが、一番長井市の中でやっぱりリスクが高いのは、地震のことももちろんあるんですが、内水被害といいますかね、最上川がかなり水位が上がりますと、西山とか、いろんなどころから流れてくる水が全部長井の町なかに集まってきます。それが排水できないんですね。ですからそののところがすぐに長井の町なかに集まってこないように、山際で治山事業、これは農林水産省の対応、それから、その下では砂防堰堤、これは国土交通省、そしてそこから下は、県の河川ですから県の方のご協力を得ながら、そしてあとは、いざというときの排水の施設とか、そういったものの整備の充実を図ってまいりたいと思っております。

ちょっと長くなりまして申し訳ございません。

○鈴木富美子議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 私のほうからは、新たな雇用の創出についての中で、既存産業への施策も必要と考えるが、今後、どのような計画がされているかという部分についてお答えいたします。

これまでの新規導入の起業、創業につきましては、平井議員のほうからもご紹介ありましたので割愛させていただきますが、ご質問の既存産業への政策につきましては、農業分野は既に一定の制度が確立されておりますので、今後の農業を取り巻く情勢を見ながら対応していきたいと思っております。

また、製造業や建設業関連では、本市でも国の中小企業等経営強化法に基づきまして、導入促進基本計画というものを策定しております。市内の中小企業には、生産性向上に向けた設備投資を後押しする固定資産税の軽減措置を2018年から継続して取り組んでいるところです。また、長井商工会議所さんと連携いたしまして、国の補助事業に係る相談業務も行っております。ものづくり補助金や事業再構築補助金、小規模事業者持続化補助金などの紹介と事業申請の支援を行っております。

こうした国の制度を広く知っていただく機会をつくるということで、毎年、経済産業省をお招きいたしまして、補助金等の説明会を開催しているところです。

今後、市内事業者の皆様と共に検討していかなければならない課題につきましては、先ほどの市長からもございましたとおり、人材の確保であります。これまで長井市では、長井工業高校の課題研究発表会への支援や広報、地元企業との連携などを行ってきておりまして、これは継続していきますが、企業ごとの対応となってしまう外国人技能実習生の受入れ、それと外国人技能実習生が住まう環境、滞在環境など、こういったことにつきましては、今後取り組む必要があると考えております。昨日も雇用対策協議会がありまして、各社長さん方とそのような話をさせていただいたところでございます。

次に、問1、(3)の新産業団地に関しての人手の確保についてどのようにお考えかというところにつきましてお話しさせていただきます。

ハローワークの状況は、先ほど市長からお話しいただいたとおりでございまして、新しい産業団地につきましては、新規参入の誘致企業が立地した場合、当然、人員の確保が心配されるところです。立地条件から非常に置賜地域でも中心部に当たるところで、通勤等の利便性は確

保されますけれども、他の自治体、隣町、隣の市あたりも人手不足は同じ状況でございますので、全てが改善になるとは考えておりません。

そこで、長井市では、このたび新産業団地整備を機会に、長井市産業振興連絡協議会を設置することにいたしました。来週、6月19日に第1回の協議会を開催いたしますが、その目的は、企業誘致及び企業立地のほか、一番のところは人材確保と人材育成ということで掲げております。長井工業高校はもちろん、近隣の高校、近隣市町の人材やUターン人材、外国人などの人材確保への対応を協議することとしております。そのため、協議会の委員につきましては、工業関係者だけではなく、教育関係者やその他サービス部門の方にも参加していただくことにしております。時間がかかる問題とは思いますが、改善に向かって地域として取り組んでいかなければならないと考えているところでございます。協議会では既存の長井・西置賜の企業への圧迫にならないような受注ネットワークの形成も図れるように相談してまいりますけれども、やがて新たな産業クラスター形成となり、若い世代が魅力を感じ、働きたい地域となるよう、関係者の協力を求めていきたいと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 新野弘明総務参事。

○新野弘明総務参事 私のほうには、問3、災害時の安全・安心な避難所の確保の中の避難所の在り方、提案として、垂直避難等の避難方法ということで質問いただきました。

避難の在り方につきましては、議員からありましたとおり、状況に応じた様々な選択肢が必要とされます。豪雨災害におきましては、避難等をより早く開始することが重要でありますので、長井市では、気象庁からの顕著な大雨に関する気象情報であったり、洪水キキクルということで、洪水警報の危険度分布図、そういった情報を速やかに入手、判断いたしまして、おら

んだラジオでの緊急割り込み放送や、屋内拡声装置を使って市民の皆さんに避難情報等を発令するほか、SNS、長井市公式ラインアカウント、そういったものを使いまして、避難情報をプッシュ型で発信を行っております。

要配慮者につきましては、災害が発生したときに、特に配慮や支援が必要な高齢者とか障がいのある方になりますけれども、そういった方につきましては、個別避難計画の作成に取り組んでおりまして、事前に計画を作成して体制ができてきている場合につきましては、災害発生時に支援者の協力により速やかに避難できるものと考えておりますので、引き続きそうした個別避難計画の作成についても推し進めてまいりたいと思います。

実際のところ、最上川の水位が上昇いたしまして、警戒レベル3、こちらは高齢者等の避難の発令の場合につきましては、避難行動に時間を要する高齢者等は危険な場所からの避難を促すこととなりますが、大雨等で避難所への移動がかえって危険な場合もございますので、安全を確保できることを判断した上で、状況によっては、議員からありましたとおり、屋内の安全確保といたしまして、2階以上の階層への垂直避難も有効な選択肢の一つとなるかと思っております。

一方で、垂直避難につきましては、洪水により孤立する可能性や大雨によって引き起こされる土砂災害の可能性、あと建物ごと流出の可能性もございますので、避難指示が発令の際は、各地区の自主防災組織において、地域住民の避難状況、自宅で避難している方の把握についても行いながら、屋内で垂直避難されている方の安全確保の活動も必要であり、重要になってくるかと思っております。

なお、堅牢な建物を有する高齢者の福祉施設等におきましては、要配慮者利用施設における避難確保計画も作成しておりますので、そういった施設につきましては、垂直避難については

有効な選択肢の一つとして考えております。

○鈴木富美子議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 ただいまは丁寧なご説明、大変ありがとうございました。

最初に、産業政策について再質問させていただきます。

人口問題につきましては、様々な要因が考えられております。まずは生活のベースとなる安心して働いていける環境づくりが大切だと思い、今回質問させていただきました。市長からもありましたとおり、人手不足が一番大変な問題になっておりまして、長井市に戻ってきることが必要であると考えます。

市長にお伺いしますが、第五次総合計画では、UIJターンを考えている人向けの情報提供というような項目がございました。いかに長井市から離れた人に来ていただけるかというような策が大変必要かと思いますが、どのように進めていくお考えなのか、ちょっとお聞かせいただければと思います。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 一番難しいのが、今、個人情報保護法の関係で、例えば1回、長井高校、長井工業高校のOBの方にもお願いして、私どものほうから情報提供させていただけるような、そういう同意といいますか、あるいは個人情報、住所、そういったものをお聞かせいただけるようにいろいろお願いしましたけど、無理でした。結局、今のところは、ふるさと長井会に入ってもらっているんですが、新型コロナの時期に長井市になかなか帰ってこれないので、県内に住んでいらっしゃる方で、ふるさと長井会の会員になっていただけるということを条件に、品物を送ったんですよ。それで2,000人ぐらいの方が応じていただいたんですかね、そういった方々には送れるんですが、実は、私どもでいろんなホームページとか、あと県と一緒に移住・定住の窓口なんか設けてるんですが、な

かなかコンタクトがないというのが実態です。あと、驚くことに、市内に住んでいらっしゃる実家のご両親とかなんかは帰ってこいって言っていたらいる人もいるんでしょうけども、それがちょっと長井の場合は薄いんだと思います。

ちょっと長くなって恐縮ですが、簡単に申し上げますと、去年とおとし、長井南中、北中の3年生にいろいろなお話をさせてもらったんですね。まちづくり青少年市民会議のほうで長井市がどういうまちづくりをしているか子供たちに四、五十分でお話ししてくださいと、意見交換も含めてと。そのときに、これから長井市、こういうことをやっていきます、公共施設もこんなことで整備しますよなんて説明をして、感想文をいただいたんですよ。感想文を、ほとんどの子供たちに、校長先生、書いてもらってこちらにいただいたんですが、その6割7割が、話を聞いてびっくりしたと、長井市ってもっと駄目なまちだと思ってたと、ところが未来があるんだなというのが分かったので、自分はもう高校卒業したら東京とかどこかに住んで、長井市のことはもう忘れるみたいな、帰ってくるつもりはなかったんだけど、見直したと、だから、長井市、もしそういうことで頑張ってくれるなら、自分たちもう1回、長井市に何か恩返しをしたいみたいな、そういう感想が6割7割だった。びっくりしました。

あと、市の職員というのはここ10年ぐらい毎年十何人ずつずっと採用してたんですが、応募が市内の方は本当少ないんですよ。ですからここ十何年、半分以上が市外の方です、職員が。受けてくれないんです。それはびっくりして、例えば自分も市の職員だったときには、もう同級会みたいに市役所の職員の採用試験なんか行くといっぱい同級生とかいるわけですよ。ところが今は長井の人が少ないんですよ。それぐらい長井ってもう駄目なまちだって親自身、子供

たちももう思っているんですね。ですからその在り方というのは、中心市街地が非常に衰退した、商業圏は非常に弱い、これに尽きるんだろうなと思ってまして、ですからUターン、Iターンというのはそう簡単には、もうコンタクトすらなかなかできない。ですから地道に何かいるんな事業でそういう人にちゃんとメッセージを送れるように、エールを送れるような、そんな取組をこれからはなきゃいけないと思っています。

○鈴木富美子議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 ありがとうございます。市長からありましたキャリア教育の推進をさせていただいて、ぜひ戻ってこれるような策をしていただければなと思います。

あと、まちづくりの観点ですが、駅西もなかなか難しい状況があると思います。その中で、長井市の西口玄関として新たな整備もできればお願いしたいなと考えているところです。

すみません。時間のないところでもう1点なんですが、安心して避難できる避難所について1点。一つとして、長井南中学校は結構スロープを整備していただいて、避難するには大変よくなったと思うんですが……。

時間でありますので、じゃあここで切らせて……。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 すみません。西口については、以前から中道のほうからもご要望いただけてます。駅前広場みたいに西口に、あるいは道路がずとんと駅につながるような、そういう道を切ってほしいというのはあるんですが、そうすると、住宅を何軒も協力いただいて、そして道路幅を確保できるような土地も取得させてもらわなきゃいけない。これは市の単独事業ではとてもできませんので、例えば駅前に前はイズミヤさんとか、住宅が何軒もあったわけです。それは、補助事業で採択していただいて、5割補助

の事業で移転補償とかいろいろしたものでできたんですね。西口のほうは、その事業がなかなか採択できる要件が満たして今のところいないんですよ。なのでそのところを何とかしなきゃいけないと思いますので、今後の課題として、例えばこちらだと本町・中央まちづくり協議会って、本町の街路事業で商店街と、あと地元の人たちでつくってもらったんです。あと、駅前通りまちづくり協議会、それから宮・小桜街区まちづくり協議会、やっぱり西口のほうの協議会みたいなものをつくっていただけるような、そういう動きなども我々から働きかけてやっていきたいと思います。

あと、避難所については、これはまたいつかの機会にいろいろ教えていただきたいと思います。ちょっとむしろ具体的にまた何かの機会にいただければと思います。大変申し訳ありません。

○鈴木富美子議長 1番、平井直之議員。

○1番 平井直之議員 時間のないところ、大変ありがとうございました。住みよい長井にしていきたいと考えますので、今後ともよろしくお願いいたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

散 会

○鈴木富美子議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。

午後 3時01分 散会